

令和元（2019）年度 斜里町・羅臼町のヒグマ目撃・対応状況等について

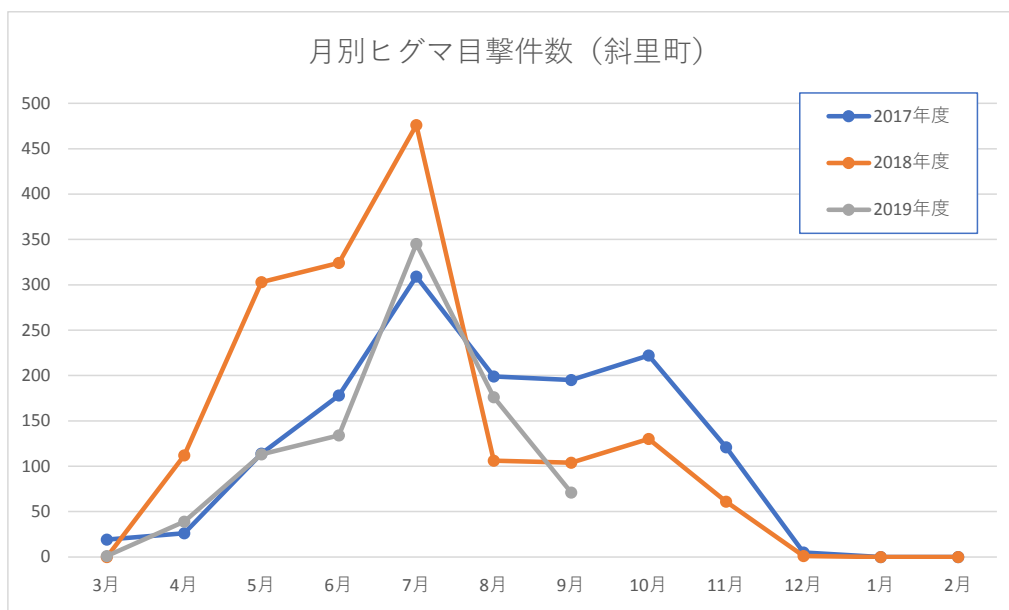
1. 2019年度（クマ年度）のヒグマ目撃件数など（2019年3月1日～9月25日）

	斜里町	羅臼町	合計
目撃件数	879（1425）件	322（270）件	1201（1695）件
対応件数	439（890）件	250（202）件	689（1092）件
有害駆除頭数	26（8）頭	12（10）頭	38（18）頭

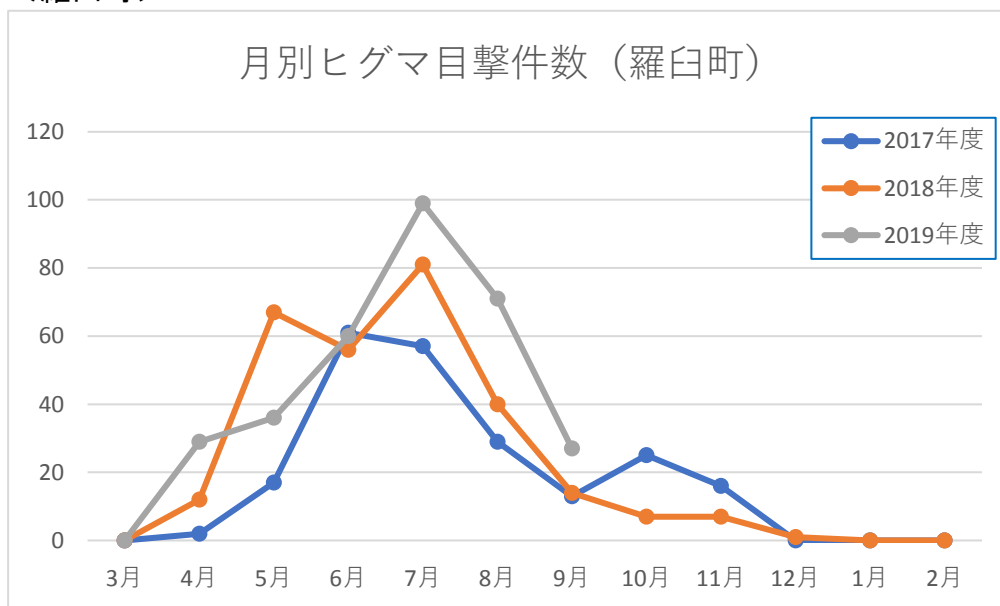
※（）内は前年同期。

2. 2017-2019年度のヒグマ目撃件数推移（月別）

<斜里町>

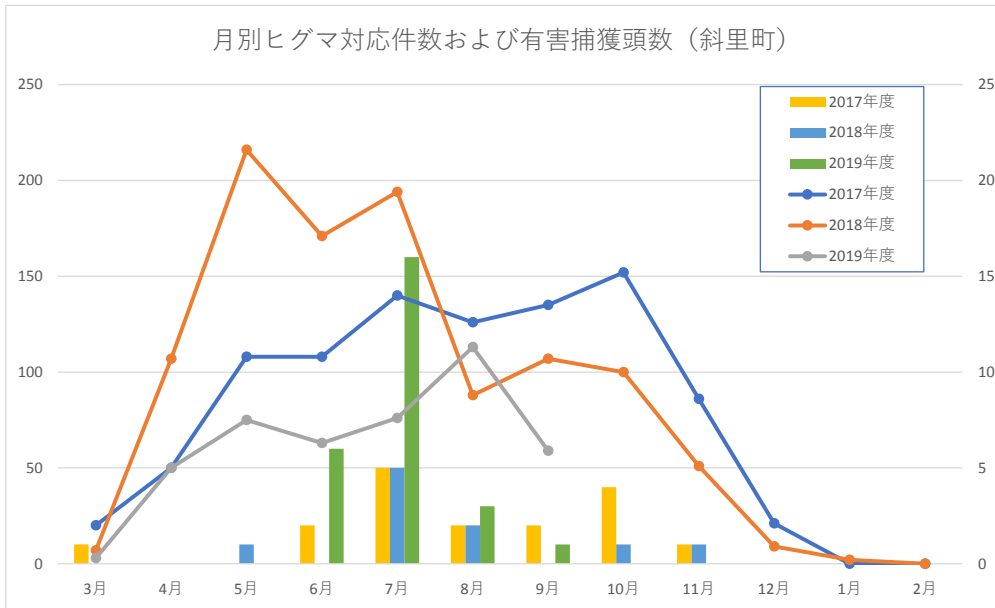


<羅臼町>

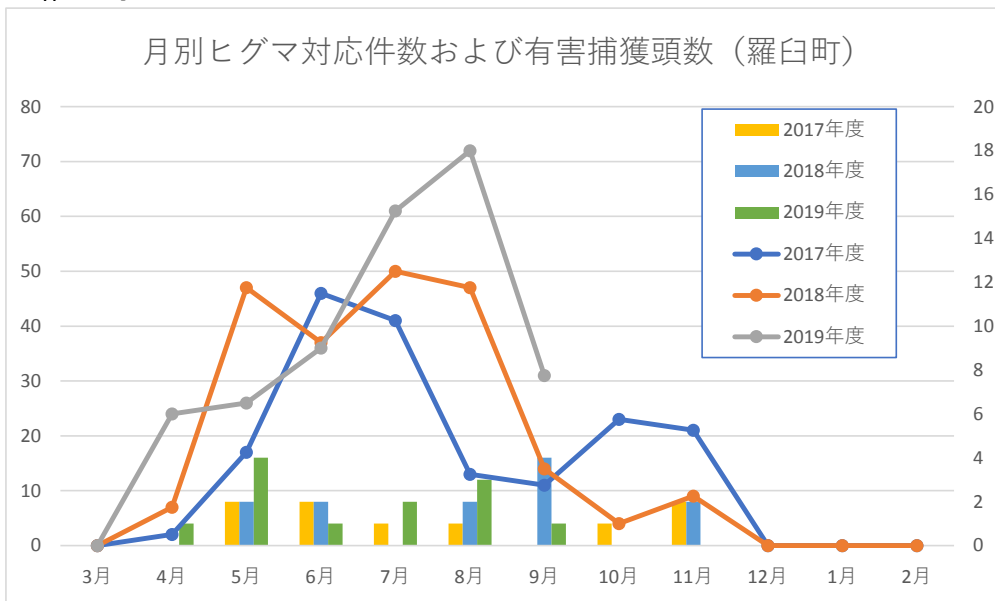


3. 2017-2019年度のヒグマ対策活動件数（対応件数：折れ線グラフ）および有害捕獲（駆除）頭数（縦棒グラフ）の推移（月別）

<斜里町>



<羅臼町>



4. 2019年度のトピック

<斜里町>

- ① **情報発信強化** ビジター等への普及啓発・情報発信を強化するため、既存のフェイスブック（BearSafetyShiretoko）とホームページ（知床のひぐま）に続いて、ツイッター（Bear Safety Shiretoko）とインスタグラム（bear_safety_shiretoko）による発信を4月より開始しました。ビジターが知床に到着する前に正しい知識を得ることができる状態を目指しています。

② **ヒグマの「制度慣れ」進行中** 知床五湖の地上遊歩道における「ヒグマ活動期」（登録引率者ガイドの同行必須期間）のヒグマ遭遇件数が過去最多（186件）を記録した一方、ツアー中止は19件（10.2%）のみ。ガイドツアーを忌避しないヒグマ（複数）がツアーと次々遭遇する状況。ヒグマは人を見ても逃げない方向で学習強化されるため、「植生保護期」に切り替わった途端に遊歩道閉鎖が続く状況。

課題：ヒグマの状態が変化し、五湖利用調整地区の制度が設計当初のままでは通用しなくなりつつある。五湖のみならず、国立公園内全体でヒグマに対する接し方を再検討する必要があります。

また、「ヒグマ活動期」に親子グマと近距離遭遇したガイドツアーがツアー継続を宣言し、後続ツアーが連続遭遇する状況には安全管理上の懸念があり、さらに管理者側は、制度や安全性に関する対外的な説明が困難となっています。

③ **いつまでも解決しないクマ渋滞問題** クマ渋滞（Bear jam）や降車してヒグマに接近し撮影する事例（野生動物へのハラスメント）が、国立公園内（主に幌別～岩尾別～五湖手前）で相変わらず発生。9月の連休には首都圏のTVキー局にとりあげられ、何度か全国放送されました。

課題：多くのTV局はクマ渋滞問題を矮小化・単純化して単なる観光客のモラル・マナーの問題として伝えていたが、根本的には公園利用者のアクセス手段をデザインし直さないと永遠に解決しない問題。ヒグマ目撃時のビジターの降車や接近撮影を法や条例で強制力を伴って規制することは現状では困難。そのため、クマ渋滞による交通障害・交通事故の発生防止、ヒグマの突発的な突進・攻撃による人身事故の発生防止、および、過度の人なれ進行等によるヒグマの駆除数増加抑制の3点の理由により、ウトロ市街～幌別園地～五湖のシャトルバスシステムへの切り替えが必要となっています。そもそも5～10月の週末や連休、お盆時期などに、知床国立公園の受け入れ能力（道路幅、各登山口・各施設の駐車場の収容能力等含む）を超える数のマイカー・レンタカーの入込がある状態が長年放置されており、交通弱者である外国人旅行者にも優しい国立公園・世界遺産を目指すのであれば、仮にクマ渋滞の問題が無くても、新しいシャトルバスシステムの整備は喫緊の課題です。



<羅臼町>

- ① **飼い犬被害が連続発生** 外飼いでつながれていた犬が連続してヒグマに食害される(7/10 海岸町, 7/27 峯浜町, 8/3 春日町)。2 件目の現場確認中に 4 名がヒグマの威嚇突進を受け、海岸の石浜で転倒した知床財団職員 1 名が重傷。現場付近で回収したクマ糞の DNA 分析(北大実施)により、オス成獣の同一個体(RT)が、前年 8 月の犬 2 頭の同時食害も含む、4 件すべての加害個体であると推測されている。10/3 時点で RT は未捕獲。RT は 2018 年の食害の際には、犬食害後まもなく斜里町側の国立公園内へ移動したことが、公園内の体毛の DNA 分析により判明しています。

課題：各事例とも共通して住宅脇の深いヤブがヒグマの侵入経路・犬への接近経路となっており、草刈りが有効な対策と考えられます。しかし全町でヤブの草刈り活動を確実に実施するためには、住民自身が危機感を持って地域ぐるみの活動にする必要があります。また後述②③の事例も含めて、全町の大半を占める国有林、国立公園特別保護地区および国指定鳥獣保護区などの保護区から隣接する住宅地周辺へ移動・分散してくるヒグマが多くの問題を起こしており、自治体が担っている住宅地ヒグマ対策に対する、保護区の管理機関による責任ある関与と積極的支援が求められます。

- ② **住宅地で生ゴミ・干し魚・水産加工残渣の食害と建物被害が相変わらず発生** 夜間に生ゴミや魚を屋外に放置したためヒグマに荒らされる事例が今年も発生(9/4, 5, 10)。また水産加工場や残渣運搬会社の施設・トラックがヒグマに破壊される被害が発生(7/19, 8/8)。ヒグマが住宅地の海岸で何度も目撃されて調査したところ、家庭から排出された疑いが濃厚な不法投棄生ゴミを、ヒグマの滞留場所で見発見(9/30)。

課題：人為的食物に餌付いた、通常より 1~2 段階危険なヒグマ(人身事故を発生させやすいヒグマ)を住民自らが繰り返し作り出していることへの地域の危機感は、重大事件が毎年連続発生しているにも関わらず低調。一方、住宅地周辺でのヒグマ捕獲作業の総合的リスクは年々上昇しており、近い将来重大な事件・事故が起こっても、従来のように問題個体の迅速な捕獲で事態を早期に鎮静化することが困難になる恐れがあります。

- ③ **動物死体がヒグマを誘引** 5 月以降、羅臼町内各地でトド等の海生哺乳類の死体漂着が例年以上に多発。住宅地周辺での誘引物除去作業がたびたび発生。知床岬への海岸線トレッキングコースにも数頭のトドが漂着し(7 月下旬~8 月中旬)、死体に執着しているヒグマからトレッカーが威嚇突進(ブラフチャージ)される事例も発生。人身事故防止のため、関係機関連名のチラシを相泊の入林箱に設置。

知床横断道路(知床峠~羅臼湖入口間)でもエゾシカオス成獣の土饅頭状態の死体を緊急回収(8/9)。死体回収前後の時間帯に計 2 回、ヒグマが一般車両のボディを前肢で叩く事例が発生。SNS・看板等で注意喚起した。幸い当該ヒグマはその後大きな問題を起こしていないが、横断道路は自転車やバイクが多数通過するため、人身事故に至らなかったのは単なる偶然に過ぎない可能性もあります。

課題：現在の知床には、人の側の行動をコントロールできるような国立公園利用調整システムが大半のエリアにおいて存在しない。そのため、たとえ人命を守るためであっても、緊急時に国立公園利用者の行動を制限することができない点が課題です。



知床峠におけるエゾシカ死体回収時に威嚇してきたヒグマ



知床のひぐま (HP)



BearSafetyShiretoko
(Facebook)



Bear Safety Shiretoko
(Twitter)



bear_safety_shiretoko
(Instagram)

(データとりまとめ：知床財団)